

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第64号	氏名	近藤 晃
学位審査委員	主査 森内 浩幸 副査 佐々木 均 副査 中村 三千男		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、院内感染の起炎菌として極めて重要な緑膿菌の病原性に大きく関与する組織侵入性の機序の解明を目指したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>組織侵入性に関与することが示唆される Quorum sensing 機構に寄与する遺伝子 Las と RhI の変異株を用い、組織侵入性試験のモデルとして定評のある MDCK 細胞モノレイヤーにおいて解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析したところ、<i>lasI</i> と <i>rhII</i> の遺伝子変異株では組織侵入性が有意に低下したが、これらの遺伝子産物 homoserine lactone (HSL) を外来性に添加しても組織侵入性には影響がなく、HSL 系情報伝達物質とは違う機序であることを示したもので、緑膿菌の組織侵入性の理解を深めることに大きく寄与するものである。</p> <p>以上のように本論文は緑膿菌の病原性の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			